



[千年の都を育む水・土・緑]
伏見のまちと酒どころ

歴 085 (H29)

長さ2丈におよぶ流れ星が降ったとする異変のあった天平勝宝2年(750)に創建されたと伝えられ、伏見における最も古い神社のひとつである金札宮は、旧久米村の産土神として崇拝されており、祭神に天太玉命、天照大神、倉稲の魂神を祀っています。末社にお祀りしてある恵比須神とともに、開運の宮・幸運を呼ぶ宮として地域の人々の崇敬を集めています。

伏見区役所の北側に位置し、境内は東西に細長く、通りに面して参門が設けられています。敷地中央には樹齢千年以上ともいわれる御神木の大きなクログネモチ(京都市指定天然記念物)が、整った樹冠を形成しています。この御神木の奥には、拝殿と本殿が直線上に配置されています。

現在の社殿は、弘化3年(1846)伏見奉行内藤豊後守の許可により造営が始められ、嘉永元年(1848)に完成したものです。本殿は、一間社流造、正面に唐破風屋根付四脚門の拝所を付設し、虹梁正面に鶴に乗る仙人、木鼻に唐獅子など見事な彫刻が施されています。

毎年1月に催される恵比寿・寶恵駕籠(ほえかご)巡行祭は、平成22年に55年ぶりに復活し、伏見界わいを活気づけています。



本殿



恵比寿・寶恵駕籠巡行祭 [ホームページ写真]



〒6 12-8062 京都市伏見区鷹匠町8

電話/FAX 075-611-9035

アクセス 京阪電車「丹波橋駅」徒歩5分

ホームページ <http://www.kinsatsugu.jp/>